

X線回折装置使用法

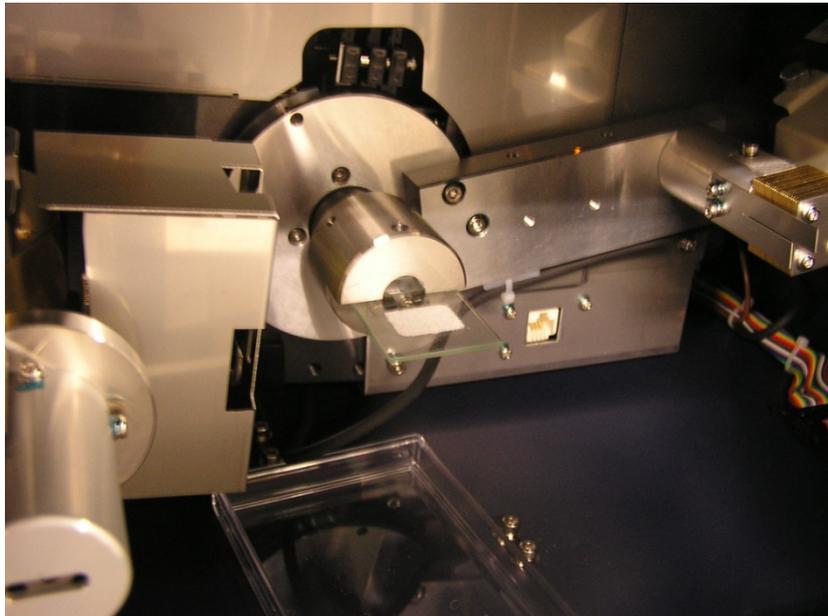
<測定準備>

冷却水のスイッチを ON にする。

次に、POWER スイッチを ON にする。パソコンを立ち上げる。



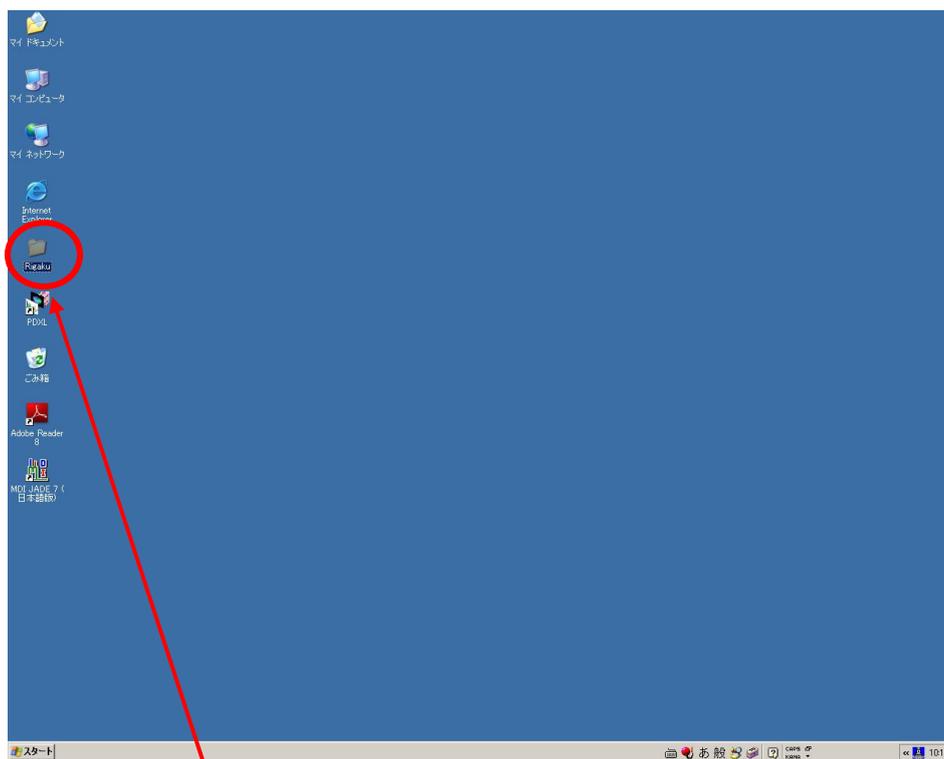
1. 装置前面にあるハンドルを“OPEN”にして、ドアを開ける。



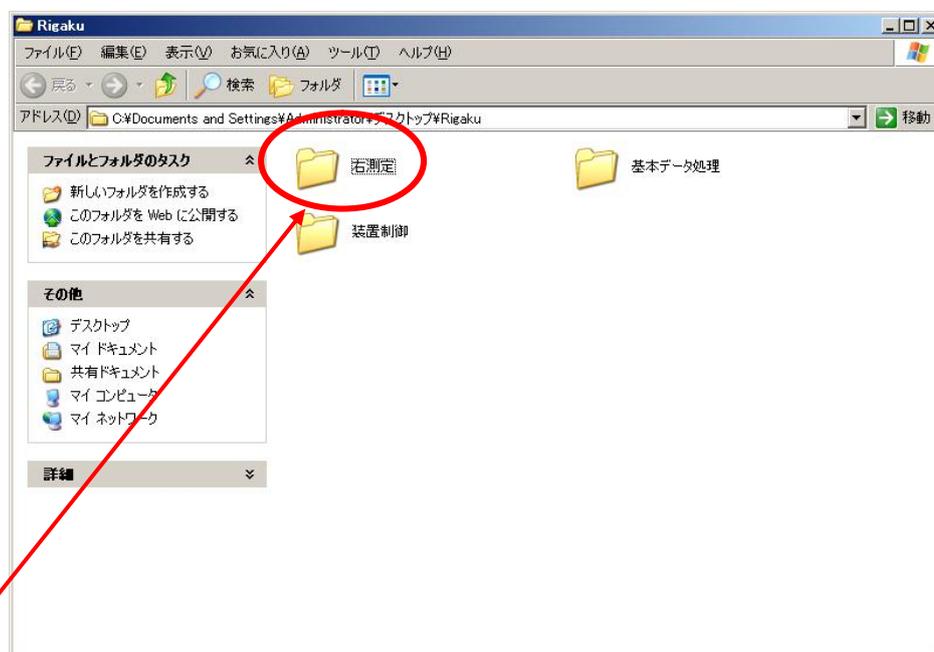
2. 試料室内のホルダーに試料をセットする。
3. ドアを閉めて、ハンドルを“LOCK”にする。

<測定>

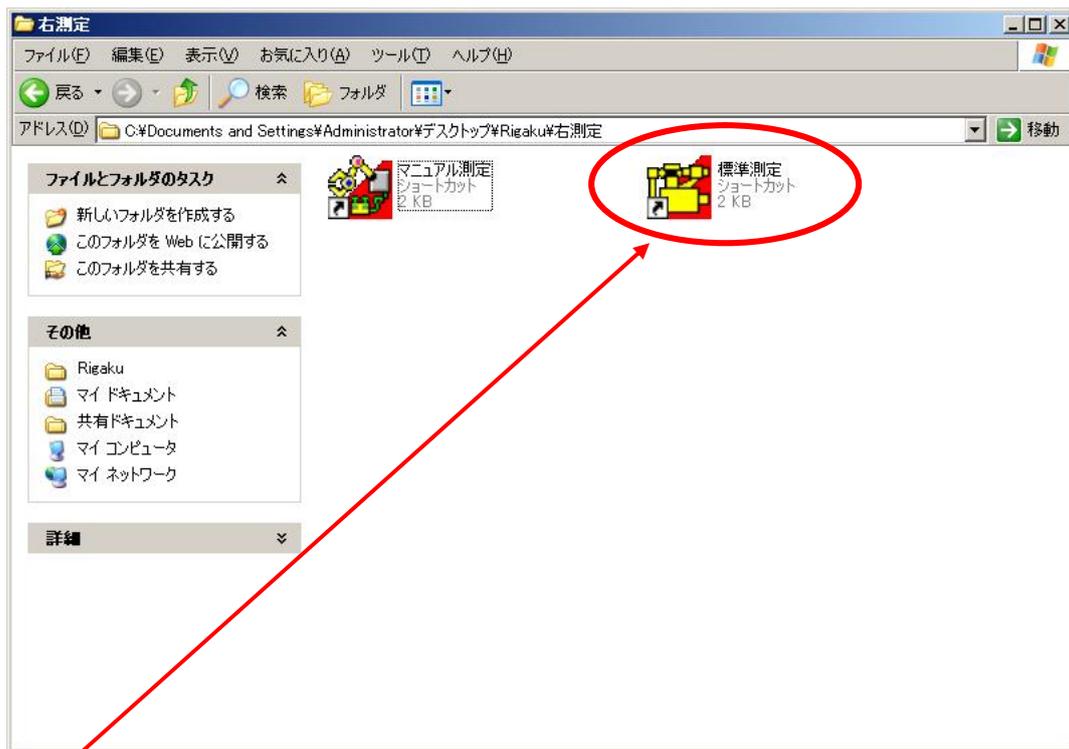
1.



デスクトップにある“ Rigaku ” フォルダをダブルクリックして開く。

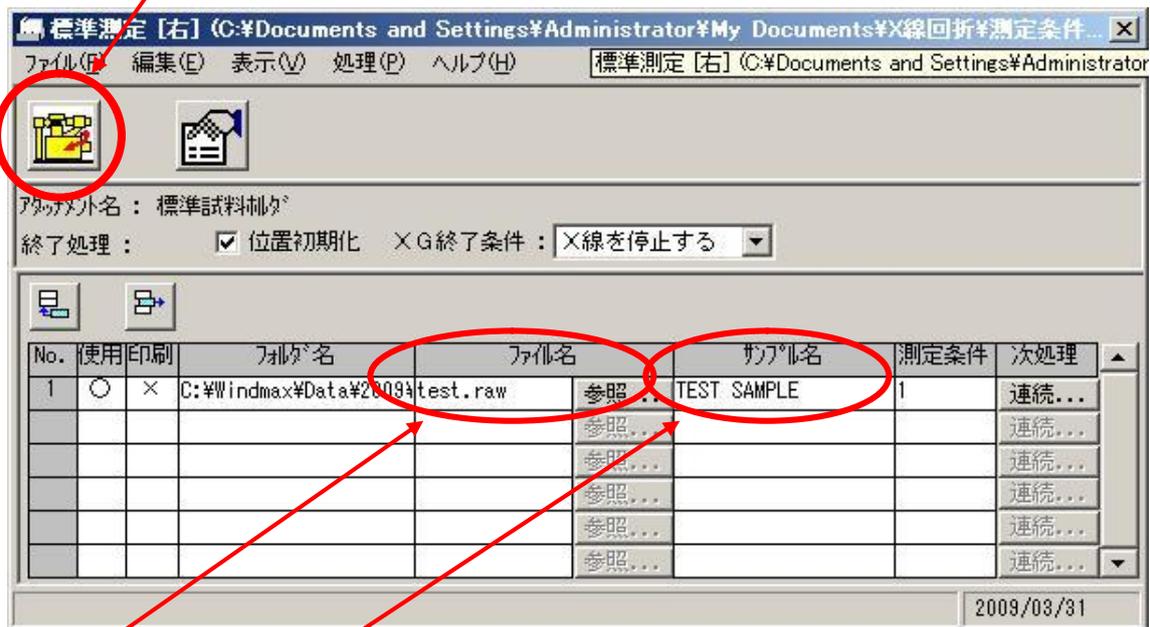


“ 右測定 ” をダブルクリックして開く。



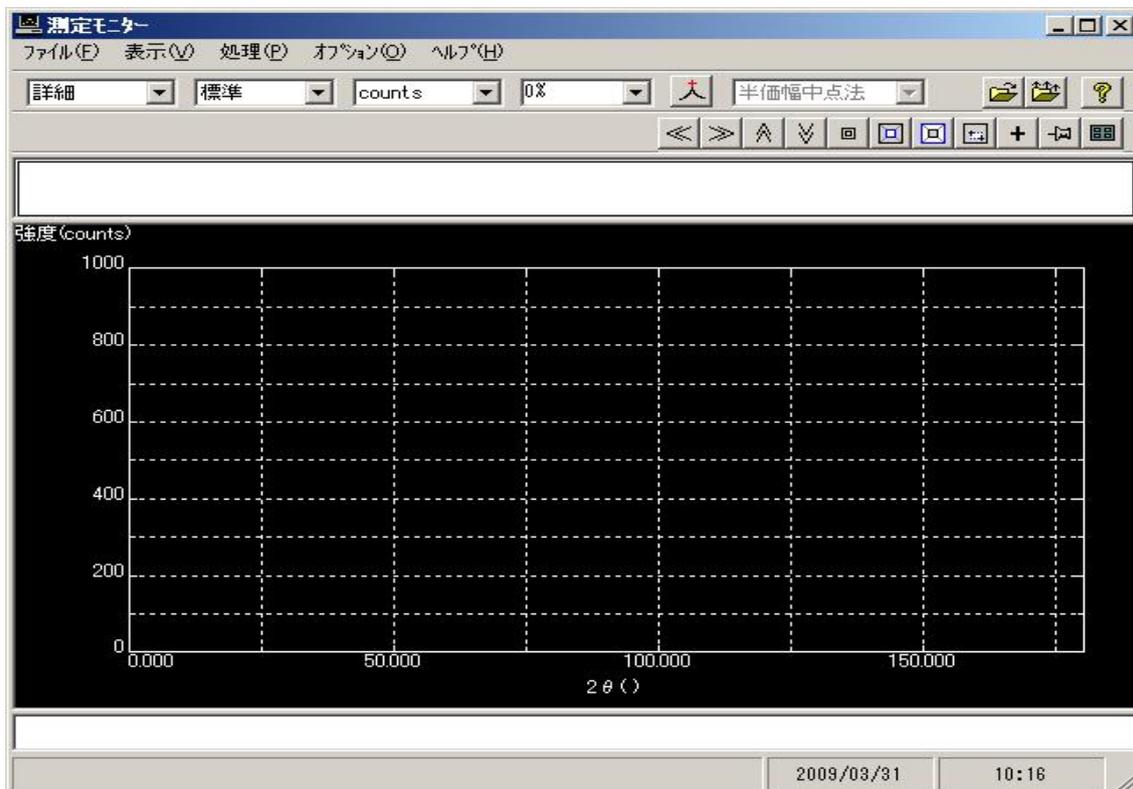
“標準測定”アイコンをダブルクリックして、プログラムを起動する。

2. “測定実行” ボタン



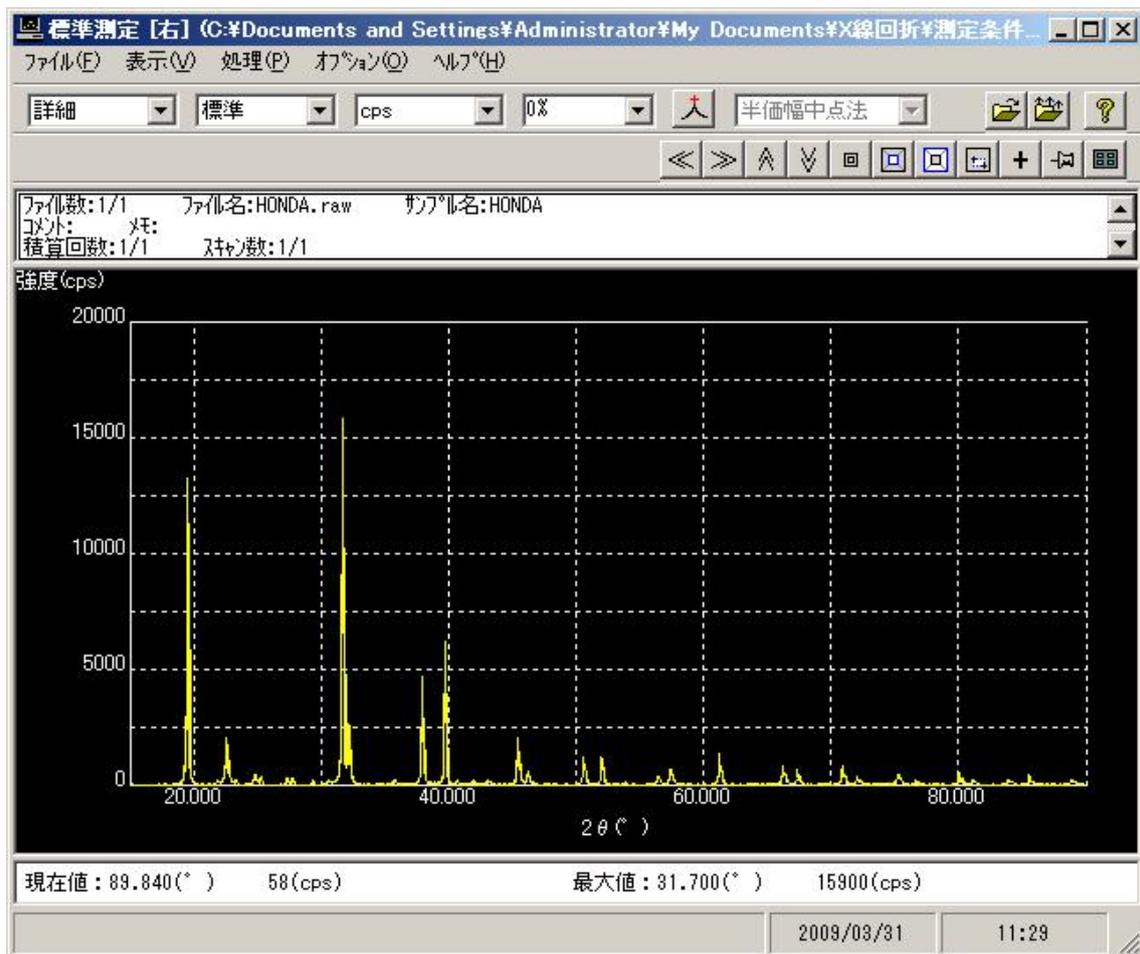
“ファイル名”と“サンプル名”を自分の試料のものに変更する。

“測定実行” ボタンを押すと下のような画面が表示され、測定が開始する。



3.

測定が終了すると、以下のような画面になる。



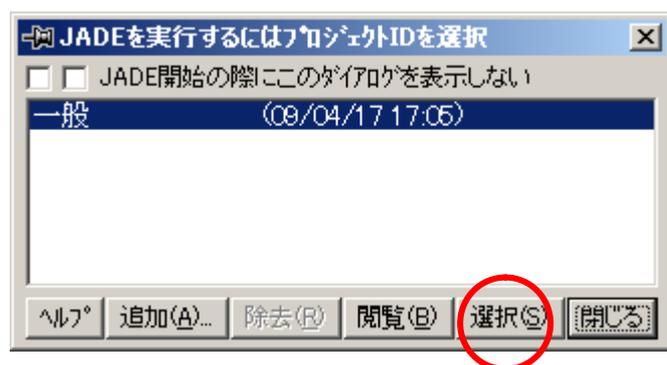
解析方法

1.

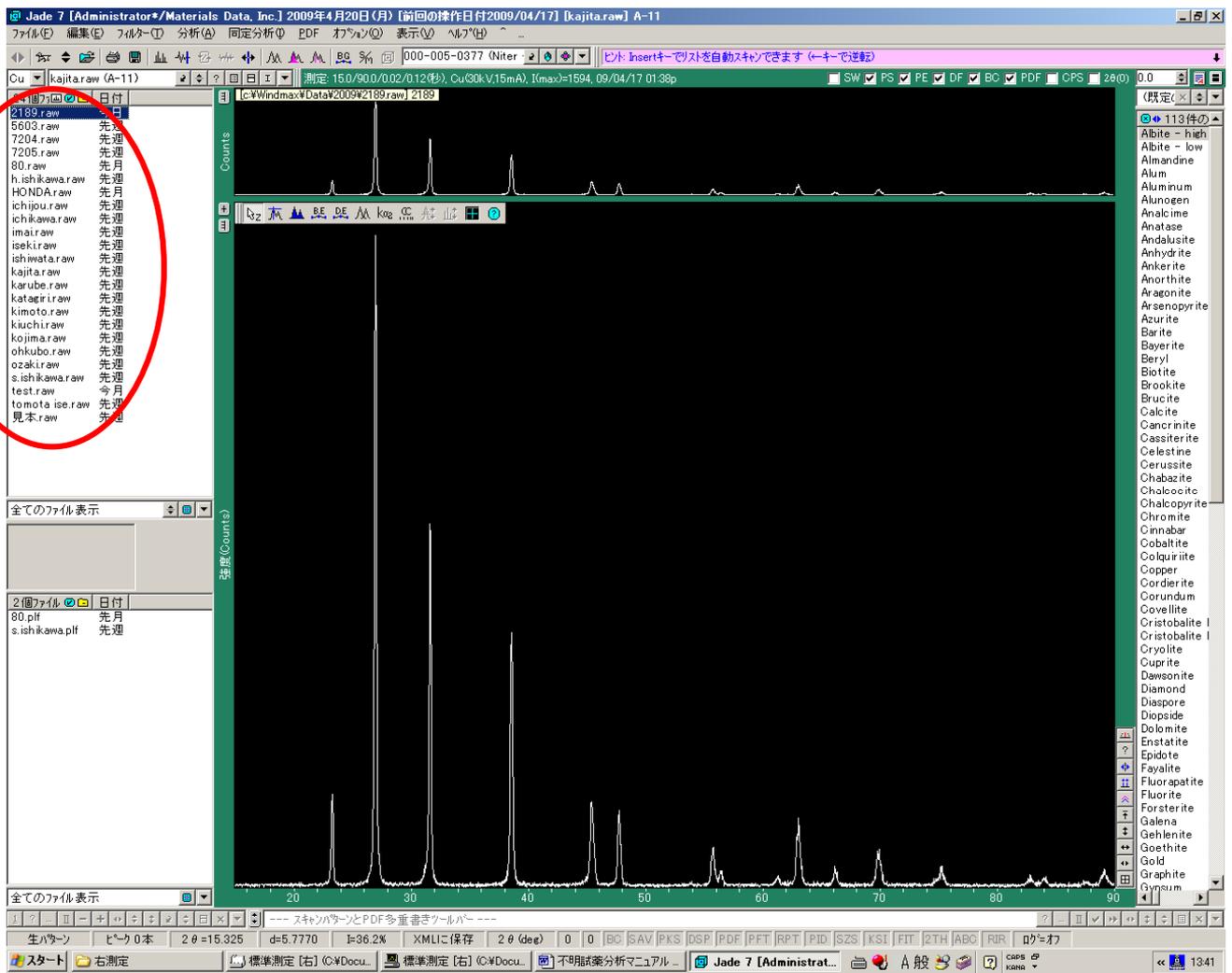


“ MDI JADE 7 (日本語版) ” をダブルクリックして、プログラムを起動する。

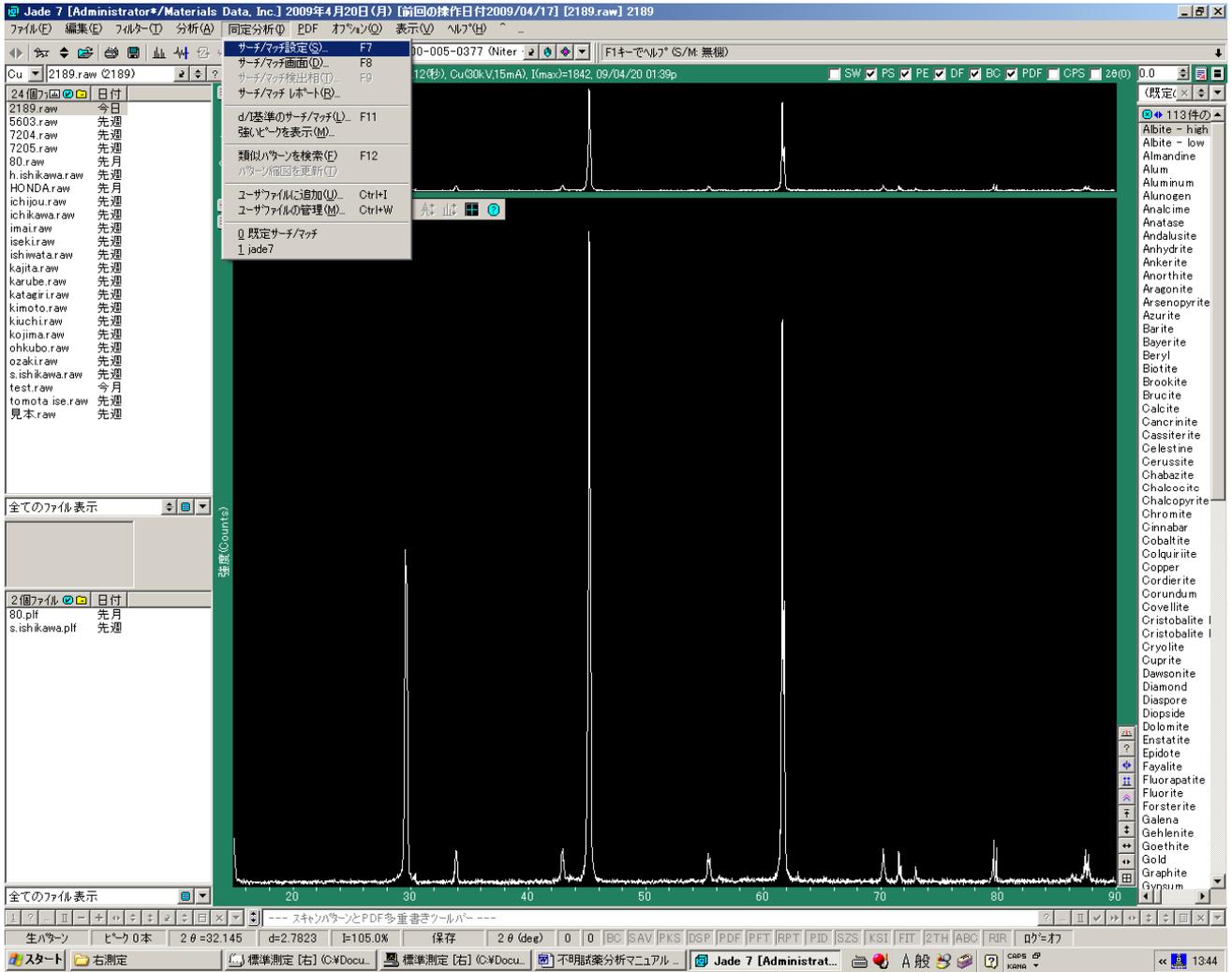
次ページの全画面と共に以下の画面が現れる。



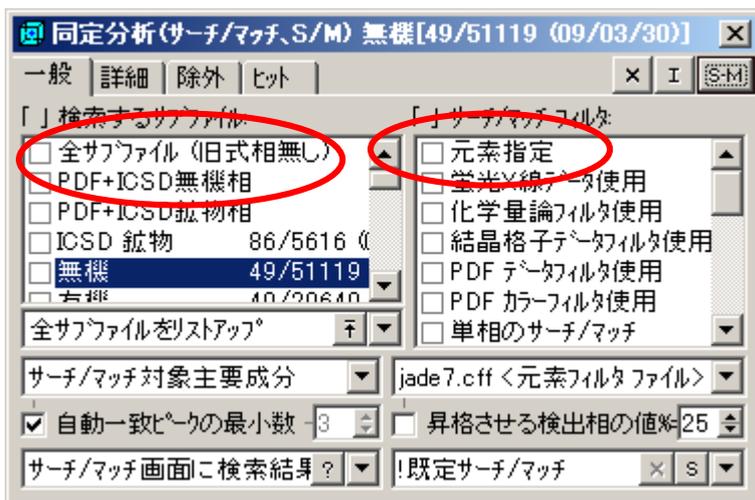
“ 選択 ” を押す。



この画面左の測定データの中から目的データをクリックする。



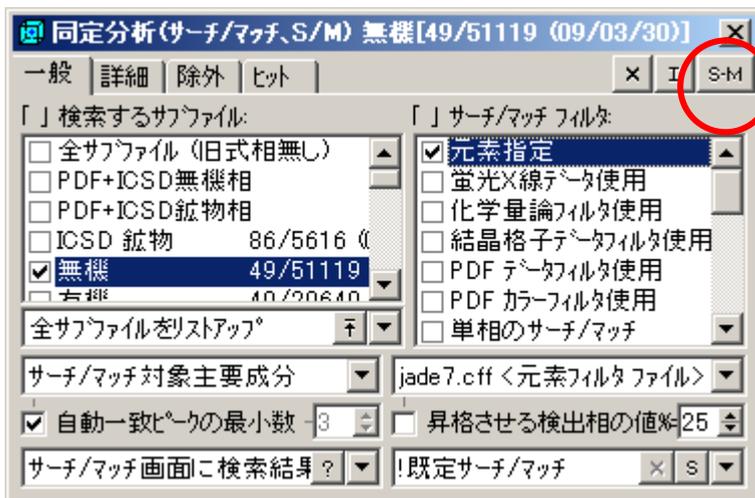
「同定分析」を選択し「(サーチ/マッチ)設定」を選択する。以下の画面が現れる。



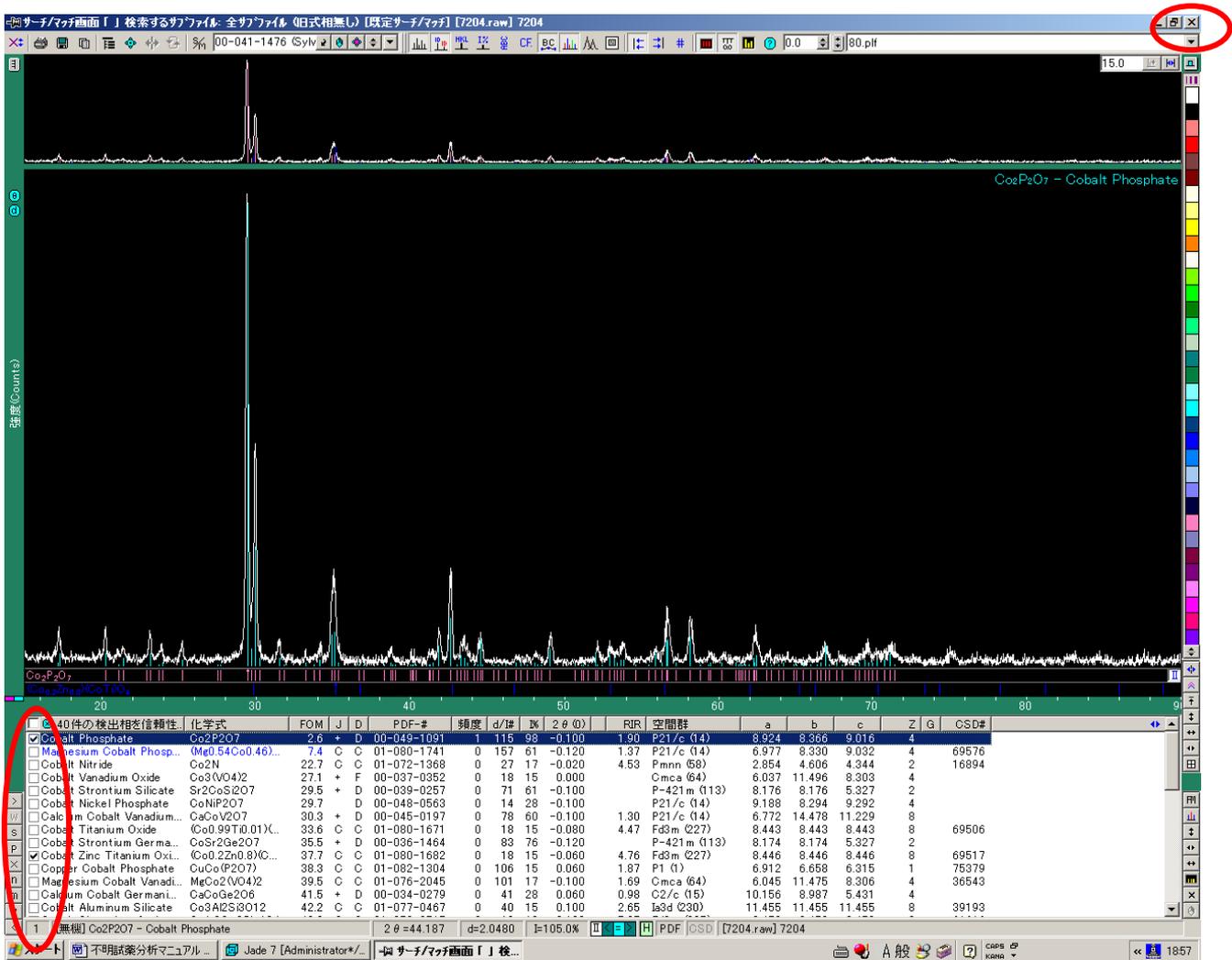
ここで、全サブファイル 元素指定 をチェックする。



元素指定を選択すると上の画面が現れる。蛍光 X 線分析で検出された元素を必要元素としてクリックする。他の元素は可能元素としておくこと。よければ OK をクリックする。



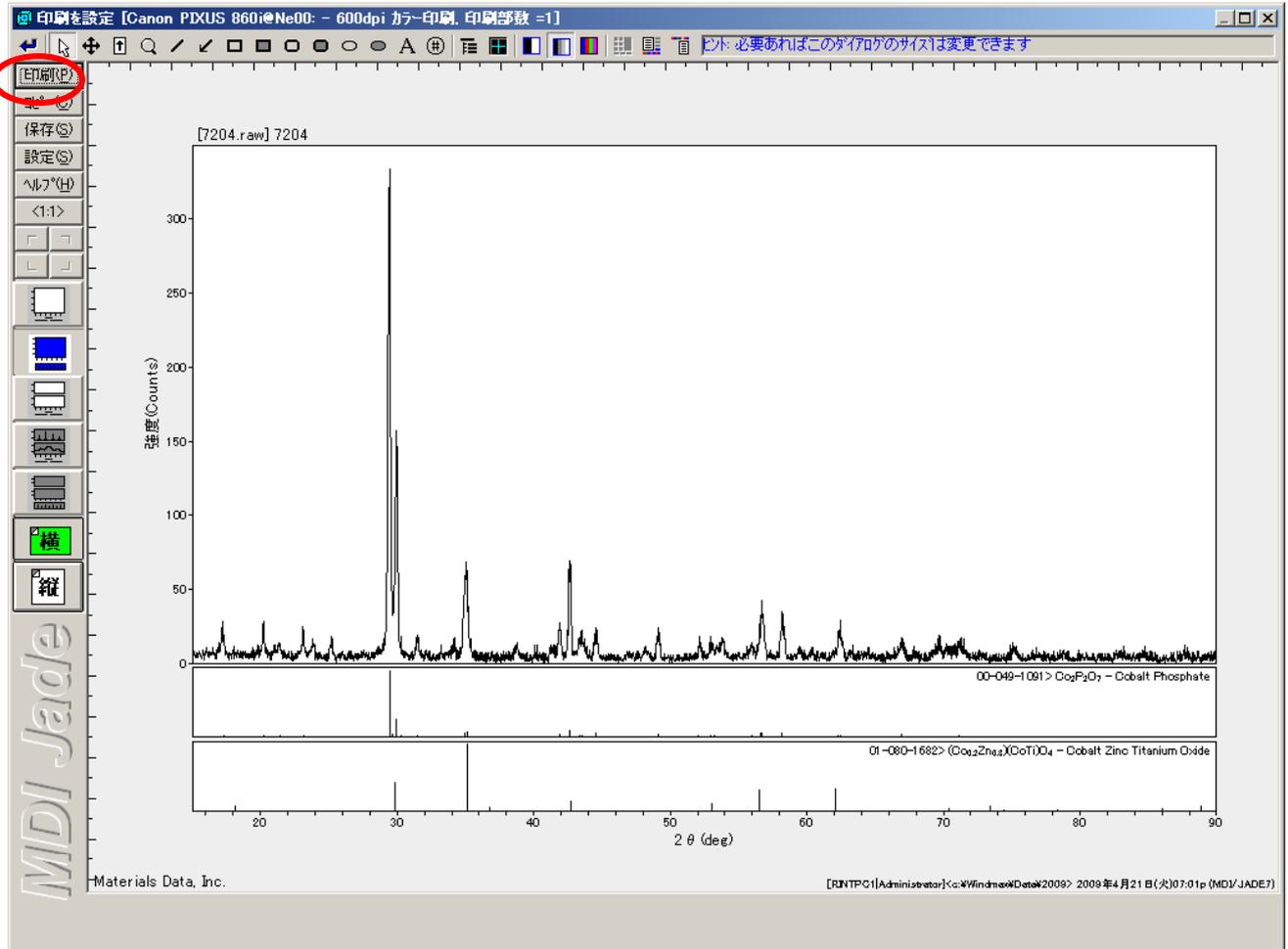
右上の S-M をクリックする。



候補の物質にチェックを入れる。チェックを入れたらその画面を終了する。

初期画面に戻る。

初期画面のファイル 印刷の設定をクリックする。すると以下の画面が現れる。



この印刷をクリックする。

印刷が終了したら、終了をクリックする。